

末恒地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成29年7月19日(水) 19:00~20:15

2 会 場 末恒地区公民館

3 出席者 地元出席者 36名
市側出席者 15名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進局長、乾防災調整監、田中企画推進部長、久野地域振興局長、浅井経済観光部長、国森農林水産部長、綱田都市整備部長、渡邊秘書課長

<事務局>福島協働推進課長(司会)、宮崎協働推進課課長補佐、有本協働推進課主事、北村協働推進課主事

4 地域の重要課題について

1 末恒地区における市の観光戦略について

<地域課題>

当地区は「神話の郷白兔」、「山陰海岸ジオパーク」、「小沢見海水浴場」、「湖山池(石がま漁)」などの素晴らしい観光資源が地域内にある。まちづくり事業としても名所旧跡マップを作成して全戸配布し、そのマップを基に「ふるさと探訪」の事業を行った。また、最近では末恒地区の”良いところやモノ、ヒト”などを再発見する「あるある探し事業」を展開している。これは市の観光戦略と一体と考えている。

「白兔道の駅」オープン以降は、白兔神社の参拝客も徐々にではあるが増えている。しかし、海水浴客数に往時の面影はない。加えて鳥取西道路が開通すると素通りの懸念もあり、地区要望等でも提出している「白兔-御熊線」の整備も課題となる。これらの諸課題について市の戦略を伺いたい。

<担当部局の所見等>

【経済観光部】

末恒地区は、神話「因幡の白兔」の舞台として全国的にも有名な「白兔海岸」をはじめ、自然や古代のロマンあふれる歴史・文化に恵まれた観光資源があり、本市の観光振興にとっても重要な地域です。

末恒地区では、全国モデル重点「道の駅」に選定されている道の駅「神話の里白うさぎ」の地方創生拠点再整備基本構想(案)で示されている、

1. 自然環境を活用した、新たな健康づくり・アクティブスポーツの拠点化の推進
2. 神話因幡の白兔、ジオパークなどの歴史・自然をテーマとした周辺観光施設や他の「道の駅」等との連携の推進

を中心に、観光戦略を展開したいと考えています。

さらに、鳥取西道路の全線開通を見据え、吉岡温泉や湖山池など、周辺地域との連携により回遊性を高めるなど滞在型観光への転換を図っていきたいと考えます。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

県道御熊白兔線の整備計画について、道路管理者である鳥取県へ確認したところ、下記のとおり回答がありましたのでお知らせします。

(県回答)

本路線は、鳥取西道路開通後、吉岡温泉 I C (仮) から白兔海岸への重要なアクセス道路であると認識しており、地元要望にある J R 交差点についてどのような改良ができるか、関係機関と調整しながら検討を進めているところです。現在は、J R をオーバーパスする案とアンダーパスする案について地質調査結果を基に事業費の精査を実施しているところです。改良ルート案が決定した段階で、地元の皆様へは説明していきたいと考えています。

本市としましても、県道御熊白兔線は鳥取西道路と白兔周辺を結ぶ重要な路線と考えており、J R との交差点改良については毎年鳥取県に対し要望を行っています。引き続き、鳥取県に対し早期整備を要望してまいります。

(地区会長)

末恒地区は自然豊かで、非常に暮らし向きも素晴らしい所だと認識しています。その他にも、当地区は道の駅「神話の里 白うさぎ」や山陰海岸ジオパーク、小沢見海水浴場、湖山池や石がま漁など、地域内に素晴らしい観光資源があります。まちづくりの事業としても、名所旧跡マップを作成して全戸配布し、そのマップを基にふるさと探訪の事業を行っており、最近では、末恒地区のよいところ、よいもの、よい人などを再発見する、「あるある探し事業」を展開しています。しかし、これら観光資源は十分に活用されているというところまではいっていないと認識しており、今後の市の観光戦略と一体と考えています。

道の駅「神話の里 白うさぎ」は、地方創生の拠点として全国重点「道の駅」に位置づけられており、海水浴等も若干増加しつつあるようには思いますが、往時の面影はありません。加えて、山陰道鳥取西道路が開通の見込みとなり、下手をすれば素通りされてしまう可能性も出てきます。これらを踏まえ、白兔御熊線の整備については過去の地区要望でも要望してきています。

末恒地区は山陰線に分断されて南北に分かれています。観光道路も含め、今後の末恒地区について市の戦略を聞きたいと思います。

(経済観光部長)

末恒地区は、北に白兔海岸や小沢見海水浴場、白兔神社があり、東南には湖山池があります。自然や歴史・文化に関連した観光資源が豊富な地域であると考えており、本市としても観光振興の重要なスポットであると考えています。

まず、観光客の集客の拠点となっているのが、道の駅「神話の里白うさぎ」です。平成 18 年 4 月にオープンし、年間、約 62 万人から 65 万人の方に訪れていただいています。平成 27 年 1 月に国土交通省が全国重点「道の駅」を 35 か所選定し、そのうちの 1 か所に「神話の里白うさぎ」が選定されました。この選定にあわせ、より地域の観光や地域の発展を目指し、観光拠点としての機能をさらに強化しようとのことで、本市と国土交通省、

観光コンベンション協会、白兔観光協会、道の駅の指定管理者と白兔自治会長や白兔神社の宮司さん等にも参画いただいて平成27年3月に検討会を立ち上げ、平成27年12月に道の駅「神話の里白うさぎ」地方創生拠点化再整備基本構想を策定しました。鳥取市のホームページにも掲載していますので、ご覧いただきたいと思います。

この基本構想では、2つのコンセプトに基づき、道の駅を中心とした末恒地域や白兔地域等の振興を図っていくこととしています。1つ目は、道の駅周辺の自然環境を活用した新たな健康づくり、スポーツ等を活用した拠点化の推進です。先日もビーチテニス大会が白兔海岸で開催されたと新聞等にも掲載されましたが、マリンスポーツやサイクリング、ウォーキング等の関係者受付や休憩所等を整備することで、山陰道鳥取西道路の開通後も道の駅を目的地とするような拠点化が図れないか、そのために健康づくりやスポーツをテーマにした振興を図ってはどうかというのが1つ目の構想です。

2つ目は、因幡の白うさぎ等の神話や山陰海岸ジオパークなどの歴史・自然をテーマとして、周辺の観光施設や周辺の道の駅との連携を図っていこうと考え、構想として提示しています。具体的には、神話をモチーフとした新商品や食事のメニューの検討、あるいは主に白兔方面になりますが、鳥取駅や鳥取砂丘コナン空港等からの二次交通の検討などです。また、道の駅の機能強化として、平成28年3月に国土交通省によって道の駅の駐車場の区画線の塗り直し等が行われ、機能や利便性がますます増していますが、これもこの基本構想に基づく事業の一つとして展開されたものです。

こうした基本構想を基に、さらには周辺の吉岡温泉や湖山池との連携を図り、通過型の観光から滞在型の観光に転換していきたいと考えているところです。

末恒地区等に関連する今年度の観光戦略事業をご紹介します。

1つ目に、三津に「鳥取民藝美術館別館湖山池阿弥陀堂」という建物があります。これは、公益財団法人鳥取民藝美術館が別館という位置付けで所有されている昭和39年竣工の建物です。築50年以上経過してかなり老朽化が進んでいますが、本年3月に文化庁の文化審議会から登録有形文化財の建造物であると答申が出され、7月には官報で告示される予定になっています。

この阿弥陀堂を活用し、湖山池の遊覧

船等と連携して、例えば遊覧船の途中で阿弥陀堂に立ち寄り、お茶を出していただくなどのルートにすることで湖山池への誘客を図っていきたいと考えており、今年度、阿弥陀堂の改装事業費に対して県が補助されます。

2つ目として、平成26年から「Gバス」事業を始めています。これは鳥取市だけではなく、周辺の町村も含めた周遊型、着地型の旅行商品です。これまでは3コースありましたが、今年度は「Geoコース」に新たに「Geoコースwest」という鳥取駅から白兔に立ち寄って青谷町や鹿野町といった西地域を巡り、賀露港に戻って鳥取砂丘を回るツアーを設けました。この新コースは、1月から3月の土曜日に運行する予定です。



こうした商品の実績等を見ながら、増便等も図りつつ、白兔を含む末恒地域等への誘客を図っていきたいと考えているところです。

(都市整備部長)

県道御熊白兔線については、現在、交差部分の幅員も狭く、線形もほぼ直角になっているため、例えば、観光バス等の通り抜けも困難な状況です。本市としても、地元の皆様からの要望を受け、10年以上も前から県に対して改良を要望し続けてきた経過があります。

また、山陰道鳥取西道路については、国土交通省が、「青谷インターチェンジから浜村鹿野温泉インターチェンジ（仮称）の区間は今年中に部分供用を行い、来年12月には鳥取西インターチェンジまで全線供用する予定」と公表されています。こういった鳥取西道路等の進捗を受け、県としても、県道御熊白兔線は西道路開通後、吉岡温泉インターチェンジ（仮称）から白兔海岸等への重要なアクセス道路であると認識されており、このJR交差部分についてどういった改良が可能なのか、

昨年から調査を実施されています。現時点で、JRの上をまたぐ「オーバース」か、JRの下をくぐる「アンダーパス」の2つの案があり、現地の地質調査等の結果を基に事業費の精査を実施しているところだと伺っています。県としては、最適なルート等が決定した段階で、地域の皆様へ説明をしていきたいとのこと。

本市としても、山陰道鳥取西道路の全線開通がもう来年に迫り、先ほどの観光戦略の面でも重要な路線と考えていますので、鳥取西道路のアクセス道路となり得るこの県道御熊白兔線について、引き続き県に対して早期整備を要望していきたいと考えています。

(地元意見)

鳥取県には産業がないので、観光は大切なことだと思います。期間が長くかかっても仕方ないと思います。

先日、隠岐諸島の4島を巡りました。隠岐諸島の1つである中ノ島では、浸食によりハート型に見える岩の空洞を観光客が見つけてインターネットに掲載したことで、観光地になっている所があるそうです。既存のものではなく、新たに名所を見つけることも大切ではないかと思えます。鳥取市でも、こういう新たな観光地や写真を募集してみても



うでしょうか。それが何年か経過すれば名所旧跡になると思います。

ローソク島も、そこまで行くには費用が高いのですが、せっかく隠岐諸島まで来ているのだからと、団体客が数千円かけて見に行っています。ただ、これも見方によってローソクに見えているものです。ですから、末恒に限らず、探せば新しい名所旧跡ができるのではないかと思います。そうすれば、来る人がもっと楽しめる観光地になるのではないでしょうか。

(深澤市長)

貴重な提案をありがとうございました。私も、そのとおりだと思います。最近、インターネット等による情報発信などの、ふとした契機で注目されることもあります。鳥取市には、もちろん末恒地区を含めてですが、まだまだ多くの地域資源があると思いますので、それらが何かのきっかけで全国的にも国内外にも発信される可能性は大いにあります。

募集してはどうかと提案をいただきましたが、それも一つの方法ではないかと思いますので、今後も皆様と一緒に、鳥取市の地域資源、観光資源として活用され得るようなものを見つけ出していきたいと思います。

(地元意見)

私は三津に住んでいます。鳥取市B & G海洋センターの湖山寄りから福井の手前までが三津なので、湖山池の北岸はほとんど三津に当たると思いますが、湖山池の中で一番開発されていない区域だと思います。よく湖山池を一周するウォークイベントが開催されますが、参加者は草が多い地区だと感じられたと思います。

また、阿弥陀堂の改修について説明がありましたが、阿弥陀堂に船で行こうと思うと、船を着ける所が必要です。しかし、着ける所は浅いので、池を掘らなければいけないのではないかと思いますし、そこから阿弥陀堂に行くまでの間も整備しなければいけないのではないかと思います。

一番問題なのは、池で船を着ける所が湾になっており、南風が吹くといろいろな所のゴミが全て湾内に集まってくることです。私は1年に一度か二度、県に対してゴミの撤去を依頼しています。環境開発を進める中で、阿弥陀堂だけの整備ではなく、その周辺の湖山池のゴミの問題も考えていかなければ、来られた人に悪い印象を与えるのではないかと思います。そのあたりも、ぜひ一緒に考えてほしいです。もう今年度は予算措置が間に合わないと思うので、ぜひ今後考えてください。

(経済観光部長)

遊覧船を運航されている山陰松島遊覧船株式会社の社長に、阿弥陀堂から下りた所の船溜まりを見ていただいたところ、ここが使用可能であれば船の進入は可能だとのことでした。ただ、そこから阿弥陀堂までは民地を横切るような状況になると思いますので、事業化の際は、併せて検討したいと思います。除草やゴミの問題についても、お客様を迎え入れる体制の整備という観点から検討できればと思います。

(地元意見)

県道御熊白兔線については、県がアンダーパスとオーバーパスの2案を検討しているとのことですが、実現性が本当にあるのかどうか半信半疑です。というのも、観光道路ではなく生活道路なので実現は難しい、との県の回答を以前に聞いたことがあるのです。県の考え方が変わったのかどうかの確認も含め、さらに強く要望してほしいと思います。

併せて、実施するのであれば、私はオーバーパスでお願いしたいです。津波等の発生を考えると、アンダーパスは非常に危険だと思います。オーバーパスの場合に事業費がどの程度必要なのかわかりませんが、ぜひ県に対しては、オーバーパスでの改良を強く要望してほしいです。

(都市整備部長)

過去には、生活道路であるため改良を行う機運になかったことも事実だと思います。ただ、先ほども説明したとおり、今後、山陰道鳥取西道路が開通するといった社会的な状況の変化等もあります。事業化というところまでには、まだ順の一つずつステップを踏んでいかなければいけないと思いますが、少なくとも今は調査費を確保し、地質調査を含めルートと比較もされているところですので、本市としては引き続き、事業化について要望を重ねていきたいと思います。

オーバーパス、アンダーパスについては、現在、費用面や技術的な面も含めて検証中ではないかと思いますが、現時点でどちらがよいかということも精査中だと思います。「安全面を考慮するとオーバーパスがよい」との意見があったこともお伝えしたいと思います。

2 被害の広がる鳥獣対策について

<地域課題>

全国傾向同様、当地区でも鳥獣被害が拡大しほぼ全地域にまたがってきた。主なものはイノシシ被害だが、ハクビシン、アライグマ、ヌートリア、カモ、キジ、カラスと多種多様で、電気柵や獣侵入防止網を設置しないと作物ができない状況である。農業振興が叫ばれる中、これらのことが後継者不足と耕作放棄地増加の一因ともなっている。

種々の資材購入の助成制度、罠・檻の設置などがあるようだが応急策であり、なおかつ一般に周知されていない。根本的に科学的に動態調査を行い、環境整備や個体管理を行うべきと考えるが、対策について伺いたい。

<担当部局の所見等>

【農林水産部】

鳥獣保護管理法により、都道府県が生息調査等を行い、保護管理計画を策定し、鳥獣の保護管理を行っています。

特に被害の多いイノシシ・シカは、生息状況などを調査し、頭数を減らすよう計画されています。また、カワウなどの鳥類についても被害が顕著になってきており、現在、県で調査を開始しています。

これらの調査によると、以下の原因が考えられています。

- ①自然環境の変化（温暖化、暖冬による自然減が無い）
- ②生息環境の変化（広葉樹などの減少により、エサが減少）

- ③人が里山で活動しなくなり（山を放置）、また耕作放棄地等の増加で、里へ出やすくなった
- ④自然環境の変化により生き延びる個体が増え、餌場が無いために里へ出没し、環境のよい人の近くで生息が増加

これらの要因を全て改善するのは困難ですが、現在、鳥取市被害防止計画を策定し、

- ①侵入防止対策（電気柵、防鳥網など）
②捕獲対策（捕獲により個体数を減らす）
などを重点的に行っているところです。

（地区会長）

鳥獣被害が全国的に顕著になってきました。末恒地区でも、ほぼ全域にわたってイノシシの被害等が発生しています。田園風景が電気柵や網、檻に囲まれているようで、中に入っているのが人間なのか動物なのか分からない状況になっています。

防護柵や網などは、あくまで一時的な策でしかないと思っています。恒久的な対応としては、例えばITを活用して行動範囲をチェックするなど、生態系を把握し、環境整備を行った上で対策を取り、固体管理という方向まで進めていかないと、鳥獣被害はますますひどくなっていくと考えています。将来的なビジョン等があれば聞かせてください。

（農林水産部長）

鳥獣対策を大きく分けると、鳥獣を保護する対策と農産物の被害を抑える取り組み、この2つがあると考えています。

鳥獣を保護する対策としては、国が定める「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」、いわゆる「鳥獣保護管理法」により、県では「特定鳥獣保護管理計画」を策定しています。この計画では、鳥獣の生息調査を基に鳥獣保護区を定めることとなっており、本市では、久松山周辺や湖山池周辺などが保護区になっていますし、鳥獣の捕獲についても罠の大きさ等が定められています。

鳥獣による農作物の被害を抑える対策としては、イノシシ、シカについては県が「第二種特定鳥獣管理計画」を立てています。ちなみに「第一種特定鳥獣保護計画」は、クマに関する計画です。この「第二種特定鳥獣管理計画」でも、生息状況や被害実態、捕獲状況をしっかり調査しています。被害を抑える対策は大きく3つあります。鳥獣の侵入を防ぐ対策、個体数を減らす対策、周辺の環境を改善するような対策です。それらを基に農作物の被害を抑える対策に取り組んでいるところです。

なお、県では、イノシシやシカの生息数の調査もされていますが、まだ何頭いるというはっきりとした数字は確立できていない状況です。痕跡調査や被害状況の把握、捕獲実績等のデータから、イノシシは若干、減少傾向にあるようです。反対に、シカは少しずつ増加傾向にあるようで、近年は人里近くでの出没が続いており、被害も続いている状況です。カワウについても、県が生息調査を開始すると聞いています。

このようになった原因の一つに、自然環境の変化があります。今年はいくつも雪が降りましたが、近年は温暖化の影響によって雪が降っていないため、冬場に個体数が減っていきま

せん。加えて、植林によって山の木が広葉樹から針葉樹になり、山にエサがなくなったという生息環境の変化があります。この他に、里山活動が少なくなり山が放置されたこと、さらには高齢化の進行により耕作放棄地が増え、そこがイノシシの隠れ場になっているという状況もありますし、自然環境の変化で生き延びる個体が増え、餌場がないために人里に出てくるということも原因になっています。

本市では「鳥取市鳥獣被害防止計画」を策定しています。この計画に基づき、ワイヤーメッシュや電気柵などの防護柵等を設置して対象鳥獣の侵入を防止する取り組みや、猟友会にお世話になりながら個体数を減らす取り組み等を行っています。

有害鳥獣の捕獲は狩猟免許をお持ちの方をお願いしていますが、アライグマやヌートリアといった特定外来種については、免許を所有されていない方でも講習を受けていただければ捕獲が可能となります。ぜひ、ご協力をお願いします。

また、末恒地区内では伏野や内海中では早くから地域全体を囲う取り組みをされています。このように広範囲に侵入防止柵等を設置される取り組みも、ぜひ進めていただきたいと思います。

5 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

私は美萩野二丁目の若草台町内会に住んでいますが、若草台町内会の裏手の市道は、歩道が10cmほどしかなく、すぐ山になっているため、私達は年に2回、山の草を掃除しています。十数年前までは年に1回か2回は市がしていたのに、今は住民がしています。

しかし、山の木も伸びて枝も垂れ下がっており、私達の手では届きません。4月から市に電話で交渉していますが、回答がありません。私の町内は新興住宅地なのに、イノシシが出ます。先日は、私の家の庭が掘られていました。恐らくは夜中に出てきているのだと思います。

市道の草を年1回でもよいので刈ってほしいです。タウンハウス町内会と三津町内会は刈ってもらってきれいになっているのですが、若草団地は刈ってもらっていません。住民がしています。一斉清掃では、市道も住民が清掃するべきなのではないでしょうか。そこをはっきり聞きたいです。公園だけではだめなのですか。

（都市整備部長）

担当課にご相談をいただいたにも関わらず、まだ回答がないとのことで、まずお詫び申し上げます。

まずは現地の状況を確認するところから始めたいと思います。地区公民館を通じて連絡した上で、役員さん等と現地立会をさせていただきたいと思います。

（担当課補足：道路課）

平成29年7月20日に、要望者と現地立会しました。垂れ下がっている木の枝については通行に支障が無いため、現段階では剪定せず、随時道路パトロールを行い、支障があると判断した場合は適宜剪定する旨を伝えました。

法面部については、草が伸びて路肩部に出ているため、平成29年9月29日に市が除草を行い、路肩側の法面部1m幅で防草シートを施工し、防草対策を行いました。

(地元意見)

私は地区社会福祉協議会の者です。実は地区内には生活困窮の方がおられますが、行政で何かよい道筋はあるでしょうか。かなり困窮されているようです。

(深澤市長)

例えば、非常に生活に困窮して日々の生活も大変な状況にある方には、生活保護制度があります。これは、最低限度の生活ができるよう支援する国の制度です。今のお話では、生活困窮の程度がどの程度なのか具体的に理解ができませんが、いろいろな制度があります。福祉部生活福祉課が、生活保護制度あるいは生活困窮世帯の担当ですので、各地区の民生児童委員や地区社会福祉協議会などに相談いただいた上で、ご一報いただければと思います。まずは実態をお聴きしてどういう支援が可能か確認させていただければと思います。我々もしっかり対応したいと思っています。

(地元意見)

生活保護は財産があると受給できないと聞いています。財産とは不動産のことなのですが、今は中古不動産が売れる時代でもありません。その方は、高齢のため収入はないが家族の医療費が必要で、子どもはいないと聞いています。

(深澤市長)

少し具体的な状況が分かりました。まずはご一報いただければ、我々の方から地域に向くことも可能です。まずは我々も実態を確認したいと思います。

【鳥取市パーソナルサポートセンターのご紹介】

本市では「鳥取市パーソナルサポートセンター」を設置しており、働きたくても働けない、生活に困っているなどのさまざまな問題を抱えた相談者に対して必要な支援を把握し、状況に応じた支援へつなげるなど、解決へのお手伝いをしています。

ご家族など、周囲の方からの相談もお受けします。

ひとりで抱え込まずに、まずはお困りごとをお聞かせください。

相談受付時間／平日8：30～17：15

(土日・祝日・12月29日～1月3日を除く)

交通案内／JR鳥取駅から約1.2km

100円バス「くる梨」緑コース「イオン鳥取店」下車後約750m

〒680-0823

鳥取市幸町151 鳥取市中央人権福祉センター内

電話 0857(20)4888

ファクシミリ 0857(24)8067

(地元意見)

全国で集中豪雨等が多いです。何万世帯、十数万人に避難勧告が出ることもありました。あのような大規模な避難勧告の実現性について、鳥取市はどう考えているのでしょうか。

例えば、末恒地区では末恒小学校や末恒地区公民館、末恒体育館が指定緊急避難所に指定されています。一時的な避難所はあちこちにありますが、生活できる指定避難所に指定されているのは末恒小学校です。ただ、末恒小学校の収容能力は、恐らく千人もないと思います。

末恒地区は1,700世帯あり、人口は約5千人ではないかと思います。溝川がどの程度氾濫するかよく分かりませんが、例えば、鳥取市でよく氾濫しそうになる大路川周辺など、集中豪雨の際の避難勧告や避難指示の現実性について、防災調整監はどう捉えているのでしょうか。私は、報道を見るたびに、非現実的な勧告が非常に多いといつも考えています。

(深澤市長)

集中豪雨や大地震など、さまざまな災害があり得ますが、「自助、共助、公助」として、大きな災害が発生した場合にはまず、自分自身の身を守る行動を速やかに取っていただくことが一番肝要だと思います。また、災害発生後、時間が経過し、避難所での生活を余儀なくされる状況が発生することも大いにあり得ます。収容人員については、多少距離は遠くなりますが、市内の他の指定避難所で避難生活を送っていただくことになるかと思いません。

全市一斉に避難が必要な状況もあり得るかもしれません。そのような場合には、現実には難しい部分はあると我々も考えていますが、そうはいいまして、非現実的だからということではなく、適切な時期に避難指示、避難勧告の判断を行い、指示、勧告していくことが非常に重要なことではあると思います。特に豪雨等は地震と違い、さまざまなデータである程度予見ができ得る場合も多いと思いますので、防災行政無線等さまざまな情報伝達手段を活用し、事前に情報をお出しすることで避難行動等を取っていただくことになると思います。

よく同様の質問をいただきますが、非現実的ということではなく、まずは避難行動を取っていただく、あるいは近隣で支え合い助け合っていただくことをお願いします。「公助」の部分において、大きな災害が発生した場合すぐに全市的に救援活動を行うことが難しいというのも、残念ながら現実だと思います。我々もできる限りの対応をしていきたいと思いますが、まずは「自助」、「共助」について地域の皆様に十分ご理解いただきたいと思います。そのためにも、平素からいろいろな防災訓練等に取り組んでいただければ大変ありがたいと思います。

(乾防災調整監)

本年6月、皆様のご家庭に「2017年版総合防災マップ」が届いたと思います。このマップでは洪水の際の浸水域が色づけされており、たしかに末恒地区は広範囲にわたって浸水域になっています。これは、千年に一度の大雨、具体的には48時間に508mmの

雨が降ると想定した時の浸水深です。この想定では、大路川周辺や市街地部分は水没の恐れのあるエリアとして色づけされています。

現実には、避難行動を要請するような避難勧告等、特に水害の場合の避難勧告等は早め早めに出したいと考えています。早いタイミングで、総合防災マップの色付けされていない箇所に避難していただくよう案内することとなります。大きな水害であっても、3日耐えられれば水は引くといわれています。何とか早めの行動で避難していただくようお願いします。

(地元意見)

今年の2月初旬に大雪が降り、とても大変な数日間を過ごしました。土曜日から降り始め、数日が経過した火曜日頃に、そろそろ外に出られるかと思い自動車で出かけました。国道や県道など大きな道路は何とか行けましたが、いわゆる生活道路はいろいろな所でまだ雪が積もっていました。大きな道路から右折して細い道路に入ろうと思ったのですが、轍が20cmほどあり、自動車が2、3台立ち往生して全く動かない状況でした。

その生活道路の地域に住む人が、もう少し早く気づいて自分達で雪をかこうという気持ちになってくれたら、もう少し早く自動車が出入りできるようになるのではないかとその時考えました。私が住む伏野では、部落総出で日曜日に半日かけて何とか主要道路を除雪しました。火曜日になっても生活道路が雪に埋もれて動けない状態というのは、もう少し考えてもよいのではないのでしょうか。近隣の人も、もう少し自分達ができることをしてくれたらもっと良いと思います。

それには、やはり声かけをすることです。地球の温暖化により、今後も今回のような大雪が降るかもしれません。皆で協力し合い、なるべく一日でも早くこういった状態が解消すればよいと思い、提案します。市からも、何らかの形で連絡するなり回覧を回すなりしてもらえたらと思います。

(深澤市長)

昭和59年以来33年ぶりの大変な大雪で、皆様に大変なご迷惑とご苦勞をおかけしたことを思います。ただ今ご提案をいただきましたが、まさにそのとおりだと思います。

本市の市道延長は1,700km近くあり、全てを除雪することは相当難しいといえますか、不可能と考えるべきだと思っています。そのため、優先して除雪する路線を定めているところです。特に生活道路等については、市民の皆様のご協力をいただかなければ難しいのですが、ただご協力いただくだけでははかどらないとのことで、今回は除雪に要した経費に対する支援制度を設けました。

やがて、再び雪のシーズンがやってきます。それまでに、どういった支援制度が有効なのか引き続き研究し、次のシーズンに備えたいと思います。併せて、ぜひとも市民の皆様のご理解、ご協力も賜りますようよろしくお願いいたします。ご提案、ありがとうございます。

(地元意見)

20年ほど前から傘踊りに参加しており、私自身の視点が徐々に「参加する側」から「見に来ていただく側」に変わってきているような気がしています。

しゃんしゃん祭振興会と市との間で、どういう話をしているのでしょうか。傘踊りの目指すところはどこにあるのでしょうか。

(経済観光部長)

しゃんしゃん祭は、しゃんしゃん祭振興会が主催しています。この振興会は市と民間団体で構成しており、会長は市長です。

今年も119連が参加されますが、毎年、全ての連の代表者による代表者会議を開催しており、踊る方と援助していただく方のご意見を伺いながら運営に努めています。例えば、参加連が多く今までどおりのコースでは4千人もの踊り子を収容できないとのことで、今年コースを鳥取駅前まで延長し、なおかつ進行方向を逆にする工夫も加えています。

併せて、観光資源の一つですので、日本の祭りを目指すということからも、高知のよさこい祭りや徳島の阿波おどりのような全国から来ていただけるイベントとして育てていかなければいけないと考えており、この両方の観点から運営に当たっているところです。

しゃんしゃん祭後にも代表者会議を開催し、踊り子の皆さんからご意見を伺っていますので、お気づきの点を各連の代表者にお伝えいただければ、必ず代表者会議で意見を伺うことができますし、いただいたご意見については振興会で工夫したいと思います。

(地元意見)

私は、末恒地区の老人クラブの世話をしています。老人クラブは市社会福祉協議会が事務局です。

市社会福祉協議会では、「高齢者介護予防支援バス運行事業」により、無料で大型バスを運営しています。昨日もそのバスを利用して、老人クラブの事業を実施しました。しかし、側聞するところによると、来年からこの運行事業がなくなるとのことです。なくなると困るといのが実態です。本日は福祉部長が出席しておらず大変残念ですが、ぜひこの運行事業を続けてほしいです。

民間のバスは費用が高いため、この高齢者介護予防支援バスは大変ありがたく、今後も活用したいと思っています。ぜひ市社会福祉協議会に対し、運行事業がなくなることがないよう要望してほしいです。

(羽場副市長)

私にも認識がありませんでした。本日は持ち帰らせていただき、福祉部や市社会福祉協議会に確認したいと思います。

(担当課補足：高齢社会課)

高齢者介護予防支援バスを来年度廃止する予定はありません。

なお、当該バスは、昭和57年度に高齢者福祉バスとして始め、高齢者が広く地域社会と交流を図り、生きがいを高めるためにレクリエーション活動や研修などを通じて、自らの介護予防に資することを目的に運行しているものです。

現在は、高齢者の活動促進や介護予防に関する各種多様な施策を展開している中、バスの老朽化も進んでおり、当該バス運行の見直しも必要と考えているところです。

6 副市長あいさつ

深澤市長が東京出張のため中座し、誠に申し訳ありません。本日、岡山駅から夜行列車で東京へ出発し、明日の朝早くから東京で国会議員との意見交換会、その後、全国市長会の副会長として国への要望活動を行う予定になっています。勝手にしまして、誠に申し訳ありませんでした。

本日、多くのご意見をいただき、本当にありがとうございました。回答が不十分なところもあったと思います。また、持ち帰らせていただくご意見については、後日地区公民館を通じて連絡させていただきたいと思います。

さまざまな地域課題があると思いますし、想定外の大雨や大雪が降ったりする状況の中で、皆様が安心して暮らしていけるよう私どもも一所懸命努めますが、力の及ばぬところもあり、気が付かないところもあると思います。地域づくり懇談会は2年に一度の開催ですので、この機会以外にもいろいろな方法でご意見やご提案、情報をいただければと思います。これからも一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。本日はありがとうございました。